

## 震災がれきの受け入れ

# 「鳥羽市では難しい」

## 市長、処理能力の限界で



答弁する木田市長＝鳥羽市議会本会議場で

【鳥羽】鳥羽市議会六月定例会は十二日、再開。戸上健（共産）、橋本真一郎（無所属）、浜口一利（同）、寺本春夫（同）、井村行夫（同）の五議員が一般質問し、散会した。東日本大震災で発生した震災がれきの受け入れについて、木田久圭一市長は、処理施設の状況から市では難しいとする考えを述べた。戸上議員が震災がれきの受け入れに対する考えを問う、木田市長は、「私個人としては、安全を確認した上で協力したい気持ちはある」としながら、市内の清

掃センターが老朽化している上、志摩市と共同で建設中のごみ処理施設は処理量が一日最大九十五トで住民

分で一杯とし、「気持ちはあるが、いまはできないという判断」と述べた。また同議員は、国が三月末に南海トラフ巨大地震の津波分布と津波高の推計を発表したことも質問。離島神島の南東に最大二・四・九メートルの津波が襲うとされ、県の東海、東南海、南海連動地震の予測と大幅に違っていたが、木田市長は、

「何の連絡もなくあいう発表をされ、ある意味、腹立たしい気持ちもあった。各課には最悪の状況での対応を指示した」と述べた。市は、神島での津波避難訓練の避難先を今後は従来の倍の海拔四十メートル以上とし、来年度、同島の山の中心にある貯水タンクの耐震補強工事をする」と表明した。